

技術職員コンソーシアム講演会 開催報告

1)開催概要

2022年3月に研究基盤協議会内に設置された技術職員コンソーシアム(以下コンソーシアム)のキックオフイベントとして開催しました。コンソーシアムの趣旨説明、研究基盤協議会各部会を担当する技術職員によるコンソーシアムとの連携等の報告、文部科学省科学技術学術政策局研究環境課ならびに文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課より特別講演をいただき、若手技術職員からの今後の抱負の言葉で締めくくりました。

2)プログラム

タイトル： 研究基盤協議会 技術職員コンソーシアム講演会 「つくろう！チーム TAMARIBA」

日時：2022年7月22日(金)15:00～16:30

会場：Zoom オンライン

プログラム：

司会 横野

15:00 開会の辞 江端代表

15:05 趣旨説明「技術職員コンソーシアムの立ち上げ」 岡

15:15 報告

若手ネットワーク 横野

人材活用部会 杉山

データ分析部会 服部

TAMARIBA(企画) 勢理客

15:35 特別講演－1 「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドラインについて」

文部科学省科学技術学術政策局研究環境課

係長 渡辺 隆之

16:00 特別講演－2 「大学研究力強化に向けた取組～多様な研究大学群の形成に向けて～」

文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課

係長 中村 卓

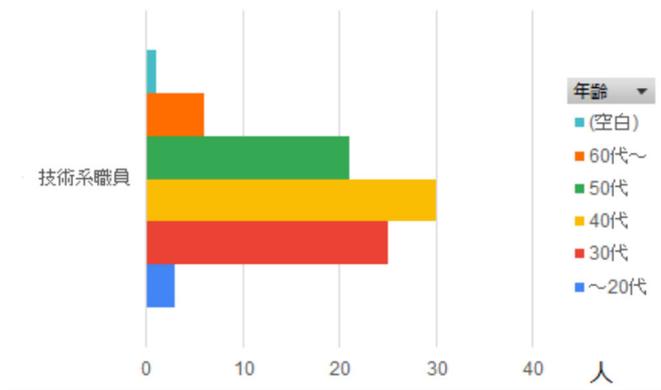
16:25 今後の計画 岡

16:30 閉会の辞 服部

3)動員数

	国立大学法人等※	公立大学法人等	私立大学等	官公庁・公的機関	民間企業等	総計	
技術系職員	80	2	3	1		86	72%
URA/マネージャー等	3	2				5	4%
事務系職員	7	1	1	3		12	10%
教員	11	1	1			13	11%
産学官連携/民間					1	1	1%
政策調査員/アナリスト				2		2	2%
総計	101	6	5	6	1	119	100%

※ 大学共同利用機関法人・高等専門学校機構を含む



4) アンケート結果

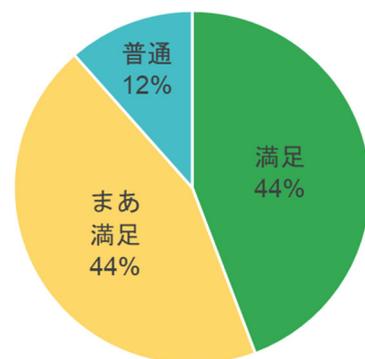
① 2022年7月22日~29日 Google フォームを利用した事後アンケートを実施

■ 回答者の属性と回答率

	技術系職員	URA	教員	事務系職員	政策調査員	民間企業	総計
学校法人（私立大学等）	3		1	1			5
官公庁・公的機関					1		1
公立大学法人等	2						2
国立大学法人等 (大学共同利用機関法人・高等専門学校機構を含む)	40	3	6	3			52
民間企業等						1	1
総計	45	3	7	4	1	1	61
回答率	58%	60%	54%	33%	50%	100%	51%

■ 全体的な満足度

	職種	回答数	
満足	技術系職員	18	27
	URA	1	
	教員	4	
	事務系職員	3	
	民間企業	1	
まあ満足	技術系職員	21	27
	URA	1	
	教員	3	
	事務系職員	1	
	政策調査員	1	
普通	技術系職員	6	7
	URA	1	





■ 各セクションに対する質問・コメント等(セクション番号とその内容)

① 趣旨説明/②部会報告/③特別講演 1/④特別講演2

①②技術職員コンソーシアムの立ち上げ及び各 WG の取り組みについてご説明ありがとうございました。各大学の状況を参考にしながら本学内の議論に役立てればと思っておりますので、今後も期待しております。

①技術職員コンソーシアムの立ち上げにより、技術職員間のコミュニケーションの場が増える事はとても有意義だと感じます。特に、次世代の中堅や若手の技術職員の交流が活発になり、職員のスキルが上がり後のキャリアパスの実現がはかれると幸いです。

③新共用が採択されて共用化を進めており、徐々にですが浸透しつつあります。その反面、料金を徴収されることに大変拒否反応を示す方も居ります。ガイドラインの紹介などもしているのですがなかなか難しい問題です。

③と④ 文科省として共用推進や研究力強化の方向性を示す中で、技術職員の位置付けや重要性、キャリアアップやキャリアパスを具体的にもっともっと盛り込んでほしい。「技術職員を活用し、それに見合った評価やポジションを与えるべきである」ということを各大学に文科省から示してほしい。そうしないと大学側や執行部側(特に旧態依然とした医学部)はなかなか動いてくれないので。

④コアファシリティについては競争的な予算ではなく安定的な予算で運営できるようにしないと、各大学の研究基盤の底が抜けてしまい、死に体の研究室だらけになってしまうと思います。

①これからいろいろやっていく！という意気込みをひしひしと感じました。今後の活動楽しみにしております。

①とっても頼もしい企画ですね。技術職員の貢献を示すデータを早く見たいですね。

③④貴重な情報をありがとうございました。今後、文科省からの概算要求や諸通知等において技術職員も対象となる事項については、「技術職員」を明記していただけないでしょうか。「研究支援員」には技術職員は含まれないと解釈している大学等が多いように思いますので。

③熊本大学の上村さんの質問にもありましたが、技術職員のキャリアパスを考えるならば現状より上位級もしくは別立ての俸給表を考える必要がありますが、その場合には人件費の増額が必要となります。技術職員に関わる人件費を増やすことは大学の裁量で可能ではありますが、現実的には困難です。技術職員のキャリアパスに紐づけされた予算配分などの手立てなどをお考えであれば教えてください。

③の共用ガイドラインの話の中で、プロジェクトで導入した機器においても、プロジェクトに影響が出ない範囲で共用は出来るはずとのことでしたが、その場合、例えば、マシンタイム制にして、プロジェクトでの使用が終わった夜に共用として使う場合、共用を担当する技術職員は超過勤務とするのか、勤務時間をシフトした方が良いのか、文科省として、どちらが望ましいと考えているのでしょうか。

⑤技術職員を中心とした組織ができ、アンケートをとる、そしてまた新たな組織ができ、新たなアンケートをとる。ずっと繰り返されている気がしていますが、今度こそ全国の技術職員の中心組織となることを期待しております。

②人財育成、マネジメント

④全体的に、文科省の方のお話はよくわからないというか、頭に入ってきませんでした。

■ 今後、技術職員コンソーシアムで取り上げてほしい話題・企画

- ・ 技術職員が研究力向上と産学連携に関与して活躍する体系とベストプラクティス
- ・ 若手職員の 20 年後の夢(キャリア、業務内容、その他))
- ・ 技術 URA というポジションについて
- ・ 技術職員が担当している受託研究や受託解析のシステムの現状と問題点
- ・ 技術職員の異動についての希望、要望と、理想的な異動システムとはどのようなものか
- ・ 技術職員の研修、キャリアパス、大学内の DX 化について
- ・ 技術職員の個人評価指標と職位、職階、キャリアパスについて
- ・ 技術職員の役職に関する昇格条件について
- ・ 企業から大学の技術職員になった方々による大学職員になって感じたメリット・デメリット、技術職員として活躍する上での課題を討論してほしい。
- ・ 技術職員の理想とされる未来像を模索する企画など面白いと思います(職種が多種多様で一言では表現できないとは思いますが)
- ・ 技術職員は何をどこまでやるのか、ということが、各機関だけでなく機関内の教員、技術職員もバラバラの価値観で来ているので、全国的に一定の目安を設定する議論をして欲しい
- ・ 多種多様なスキルを備えた技術職員が互いにそれを尊重し、力を掛け合わせて、大学や地域に寄り添った技術職員であるためには、何が必要か。また、技術職員の魅力とは何か？
- ・ 機器の共有化の方で文科省に技術職員は認識されたが、安全衛生業務や実験・実習ではまだまだな感触であるため、今後はそこに携わっている技術職員も認識されるような内容を取り上げて欲しい
- ・ 技術を持たずにシニアになってしまった方への最適な対応は何だろう...不良資産にしない方法は...
- ・ “教育支援メインの技術職員(講座貼り付き・配属)はどうすべきか？
- ・ このまま講座で埋もれていいのか？
- ・ 管理・職ポストの無い大学等の技術組織はどうやって主体性を持って活動していくか？”
- ・ 他機関との機器の共用推進のため、どのような取り組みをしているかの事例紹介
- ・ 地方大学ではリソースが限られているので、出来ることが限られてくるように思います。地方大学での技術職員のスキルアップやシステム改革の事例などについて意見交換できる TAMARIBA があるとありがたいです。
- ・ 各大学での相互講習会
- ・ コアファシリティで働く任期付きの教職員や技術補佐員の、任期切れによる雇い止め問題の深刻さ
- ・ 雇い止め・任期切れで主要担当者が離職してしまう問題
- ・ 設備更新に関わる計画策定と意思決定プロセス。私大の共用設備の課題共有について。

■ その他、ご意見・ご感想(自由記述)

- ・ 技術職員コンソーシアムの立ち上げ、ありがとうございます。ようやく、存在感の出始めた技術職員ですが、これから先は様々な課題も出て来ると思います。その解決のために、コンソーシアムの存在はとても貴重だと感じます。お互いのモチベーションを維持するためにも、有意義なコミュニティになることを期待

しています。

- ・ 全国的な技術職員のネットワークは、今後更に重要になると思いますので、頑張ってください。
- ・ 今回の技術職員の皆様のたまり場が、より明るい未来をもたらしてくださることを心から願っております。ありがとうございます。
- ・ 大変良いイベントとなりました！ 今後は各地域の技術職員会等との連携を進めていただき全国のネットワークとして前向きにまとめていただければ幸いです。引き続きよろしくお願い致します！ おつかれさまでした！
- ・ 閉会の辞にございました「今なら国・内閣府に声が届きます、今を逃すと次はありません」は今までの歴史を見続けて来られた方ならではの大切な言葉と受け止めました。
- ・ 中心メンバーの方はいろいろたいへんだとは思いますが、続けることが大事だと思います。頑張ってください。また、今後ともよろしくお願いたします。
- ・ 期待しています！
- ・ 今後、どのように展開していくのか、大変楽しみにしております。
- ・ 今後ともさまざまな視点で議論する TAMARIBA の活動に期待しています。
- ・ お忙しい中、ご準備くださりありがとうございます。
- ・ 本コンソーシアムの存在は、文科省の【研究開発基盤部会(第13回)配布資料、P24(今後のアウトリーチ予定)]を見ていたままたま知りましたので、現状知らない人も多いのではと思います。もう少し伝わりやすいアナウンスがあれば更に周知ができたのかなと感じます。(これは既に主催者の皆様が感じている課題かもしれませんが・・・) また、最近技術職員に日の目を当てようという活動が活発になってきて素晴らしいと思い、出来るだけ発表やシンポジウムには参加させて頂いておりますが、団体が増えてきて少々分りにくくなっている印象です。以前の若手の団体様で挙げた議題と被るかもしれませんが、現在存在する団体をピックアップし分かりやすくまとめて頂けたら参加している方も漏れがなく参加できると思います。 よろしくお願いたします。
- ・ メンバー的にも非常に今後が楽しみな取組だと思っています。ただ、技術職員関係のこういった会が乱立している印象があり、事実、複数の会に所属している職員もいます。非常に大切な活動で必要性も理解していますが、現場に負担がかかりすぎないような取組(他との共催、合併も視野に入れて)になると良いなと思います。
- ・ 学内に周知したいのですが、そうなると研究基盤協議会の説明をする必要があるかと思っています。簡単に説明できる試料があれば良いのですが。
- ・ メンバーや協力者を増やすには、ホームページを充実させることが欠かせないと思いますが、意欲的な取り組みで、ご尽力に敬意を表します。引き続きのご活躍、ならびに発展を祈念いたしております。
- ・ 技術部や技術職員が代表となって応募しないといけないコアファシリティ整備グラントを作ってもらおうよう文科省に働きかけるべきです。これにより、技術職員自身に予算執行とファシリティ整備の責任意識を持たせ、また技術職員自身が外部資金を獲得できる流れを作ることで、各大学のインセンティブ設計や改革が進むと思います。学長クラスを代表にした大型のコアファシリティ整備グラントだけでは、どうしても現場を無視したパワーゲームになりがちなので。
- ・ ガイドラインを整備しても予算がつかないのであれば、実態としてのコアファシリティ整備は進まないかと懸念します。そこから先の方策がまだ見えません。
- ・ コアファシリティの中心メンバーがほぼ任期付きのため、任期切れと共に支援体制が崩壊する。 また、コアファシリティの統括者たる役職の先生方が全員、副担当の兼任教員のため、本気でコアファシリティ運営に責任を持つリーダーがいない。
- ・ 講演1、2について、国立・公立を対象として説明会なども開催されているのかなと思いました。「研究

者の研究時間の確保のため」に技術職員の活躍を はなんとなく違和感を感じます。技術職員の方も多様な目的や目標はお持ちだと思います。以前も論文を書く書かないのお話でしたが、書く書かないは自由だと感じます。私立では技術職員として全国統一で語れる職や立場はございませんので、何らかのサポートが得られない限り、結局自分で何とかスキルアップをしなければステップアップは望まれません。また、大手の一部の私立大学でしか、機器の共有も進んでいないと思います。私立ですから、致し方ないことですが、私学助成や科研費で購入した機器の共有は私立でも進めば良いな と思います。いつもネックになるのは維持費、修理費、人件費(オペレーター の立場がないのという問題点もありますが)です。年度をまたいだり、項目を自由に決められたりと、フレキシブルな費用の使用方法をとの話題もありましたように、そのようになると良いなと思います。

- ・ 今回、視聴環境が良くなかったこともあり、もしよろしければ発表資料について共有していただくことは可能でしょうか

5) 所感と今後に向けて

本講演会に参加された多くの皆様より、期待の声と共に、今後の運営に対してのご指南もいただきました。ありがとうございます。

政策的にも技術職員の活躍に期待が寄せられる一方で、そもそも技術職員の実態が把握できておらず、どのように活躍の場を設けると研究力向上に資する環境整備が出来るのか、これから検討がはじまろうとしています。それら議論が絵にかいた餅にならぬよう、TAMARIBA では、現場の声をまとめ、届けることのできる技術職員コミュニティを目指します。技術職員の集まりが増えてきてわかりにくいという声もいただきました。今後、他団体との連携や協働企画なども検討し、全国の技術職員にとって、効果的なコミュニケーションの場となれるよう、コーディネーター一同、尽力してまいります。

参加登録のお願い

2022年7月26日 コンソーシアムの参加登録を開始しました。皆様のご参加をおまちしております。



技術職員コンソーシアム (TAMARIBA) 参加登録

技術職員コンソーシアムのメンバーとして一緒に活動して下さる方を募集します。

【技術職員コンソーシアム趣旨および活動内容について】

■趣旨
研究基盤に関わる大学技術職員（個人もしくは団体）が集い、参加者間の連携と協力により、各機関における技術職員のマネジメントの在り方（職階・キャリアパス・評価・給与体系等）や経営・研究戦略における技術職員の役割の明確化に資する調査・検証や広報・企画実施を行うとともに、研究基盤の戦略的活用と共用の推進に貢献し、もって、各所属機関におけるビジョンや理念の実現に寄与することを目的として活動します。

2023年1月より 一般社団法人研究基盤協議会(CORE)「共創の場」委員会のもとで活動する団体となりました。

COREへの会員登録を宜しくお願い致します

以上

技術職員コンソーシアムコーディネーター一同